

<p>1. 動機(経緯)</p>	<p>平成 19 年 5 月、後継者問題に悩む地場中小企業の事業承継を支援するために、地元のファンド運営会社である(株)ドーガン・インベストメンツが組成する『九州事業継続ブリッジ投資事業有限責任組合(以下、九州事業継続ブリッジファンド)』に、独立行政法人中小企業基盤整備機構(以下、中小機構)と九州地銀 6 行(当行、鹿児島銀行、佐賀銀行※、十八銀行、筑邦銀行、肥後銀行)とともに出資した。 本件事例は、九州事業継続ブリッジファンドの 1 号投資案件であり、当行は事業譲受資金および運転資金を日本政策投資銀行と協調融資したものの。 ※佐賀銀行は平成 20 年 8 月に出資</p>
<p>2. 概要</p>	<p>福岡県大牟田市の工業団地に進出していた大手太陽電池モジュールメーカーの(株)MSK が福岡工場を閉鎖することとなり、同工場で働いていた従業員が同工場の事業譲渡を受け事業継続を図ったもの。 九州事業継続ブリッジファンドは従業員が同工場買取りのために設立した YOCASOL(株)に投資。当行は事業譲受資金および運転資金を日本政策投資銀行と協調融資したものの。</p>
<p>3. 成果(効果)</p>	<p>事業譲渡は平成 19 年 10 月に完了し、平成 19 年 11 月より工場を再開。大手商社の出資・販売協力もあり、事業を継続している。 本件が九州事業継続ブリッジファンドの投資第 1 号であり、地元金融機関として EBO に対する融資支援もでき、当行の事業承継に対する積極姿勢をアピールできた。 本件投資により、九州事業継続ブリッジファンドの知名度も上がり、第 2 号(株)サンカラー(親族外承継)、第 3 号(予定)熊本駅前ビル等順調に投資が進んでいる。</p>
<p>4. 今後の予定(課題)</p>	<p>中小企業の親族外承継案件の全てに本ファンドが活用できる訳ではなく、後継者候補の株式買取り資金、個人債務保証の引継ぎ等への対応が可能であるかどうかが課題である。</p>

## ・ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化: 事業承継の事例

### 《九州事業継続ブリッジファンドを活用したEBO事例》

- ◎ 大手太陽電池モジュールメーカー(株)MSKから福岡工場をEBOによって承継するために、従業員が設立したYOCASOL(株)に対して、九州事業継続ブリッジファンドによる出資、および日本政策投資銀行と協調融資による支援を実施した
- ◎ 九州事業継続ブリッジファンドは独立行政法人中小企業基盤整備機構と九州地域の6地銀(当行、鹿児島銀行、佐賀銀行、十八銀行、筑邦銀行、肥後銀行)が出資して組成したファンド

※EBO(Employee Buy Out) 従業員がファンド等と協力し自社を買収、株主兼従業員として会社を存続させるもの

